

# 山は動くのだ

## －岩手・宮城内陸地震に想う－

熊谷 忍\*

「動かざること山の如し」とは武田信玄で知られる「風林火山」の名文句である。泰然自若とした容姿は誰もが自分もかく在りたいと願う。また故里の山は言うことも無く有難い。しかしそれは一般市民の感覚であり、人生50年の短い時間の物差ししか持っていないことによる。山は動くのだ。動いて今の姿となり、これからも動く。かくて岩手・宮城内陸地震は動いた。

日本列島はプレートの押し合いの結果出来た島であり、世界で一番地震の多い地震の巣であることは衆知の事実なのだから、何も驚くことは無いはずだが、今更ながら自然の強大なエネルギーは恐ろしい。何はともあれ被災し亡くなられた方々のご冥福を祈りたい。

テレビで現地の状況を見ながら推察するに、地震によって誘発され、かなり大規模な地すべりや斜面崩壊、土石流などが発生しているらしい。被災者の救済に今のところ大変なようだが、やがて被災した道路、河川の復旧、地すべり対策等が急がれることになろう。当研究会の会員の中からもご苦勞していただくことになる方々がおありと思はれる。ご健闘を期待したい。

テレビに囁き付きながら色々考える。災害多発国、人命尊重の国日本。さすがにその対応はなかなかのものであり情報も豊富で、世界的にもトップクラスだとの評もうなずける。

ただマスコミの賑やかな論議の途中ふと引っかかることがある。人類の技術はこれほど進歩し、今や宇宙を征服しようとしているのに、まだこんなことをしているのか。こんなこともできないのか。と言いたそうな雰囲気を感じずる時。逆にこの研究が進み、完成すれば地震なんか怖くないと言わんばかりの発言。何れも人類発展の無限の可能性を信じたご意見であることは理解できるが、宇宙開発について言えば、彼らは極めて忠実に従順に素直に自然の法則に従って勤めを果たしているだけなのだ、と筆者はみているのだが、如何であろうか。宇宙征服などの感覚は持っていないであろう。また自然災害について言えば地球に水があり、地球内部にエネルギーがある限り、いかに天気予報が当たろうと、大雨、洪水、大雪、台風など気象災害は無くならないし、地震や地すべりの予知予測が進歩しても地震そのものは無くならないし、斜面災害など地盤災害も同様である。山は動くのだ。その自然に対して人類は謙虚でなければならない。それに災害には常に被害者となる一般市民がいることを忘れてはならない。地震について言えば、活断層であれ直下型であれ、一般論では意味が無い。地域の気候風土、地形地質が被害に一番関係深いとすれば、その情報こそ一番知りたいことなのである。そして動く山に逆らうことなく、いかにそれと調和しバランスをとって生きるかであろう。その時一般市民が必要とする地域社会の情報、特に水や地形地質に関するものを提供する大きな使命は吾が新潟応用地質研究会にある。

---

\*新潟応用地質研究会評議員